1.　評価結果概要表

［認知症対応型共同生活介護用］

作成日　平成２１年　１月　７日

【評価実施概要】

事業所番号	０７７１１０００１３
法人名	医療法人　崇敬会
事業所名	グループホーム「さくら」
所在地	〒963-4312　福島県田村市船引町船引字馬場39番地1 （電　話）0247-81-2881

評価機関名	ＮＰＯ法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043　福島県福島市中町4-20　みんゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年12月16日	評価確定日	平成21年1月22日

【情報提供票より】（２０年１０月３０日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・平成　１７年　３月　１日		
ユニット数	２ ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	14 人	常勤 10人，　非常勤　4人，　常勤換算 12．4人	

（２）建物概要

建物構造	木造　造り
	1階建ての　1 階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	36，000円・39，000円		その他の経費（月額）	14,000　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　100,000円） 無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	300　円	昼食	400　円
	夕食	400　円	おやつ	100　円
	または1日当たり　円			

（４）利用者の概要

利用者人数		16 名	男性	4 名	女性　12 名
要介護１		1 名	要介護２		2 名
要介護３		6 名	要介護４		6 名
要介護５		1 名	要支援２		0 名
年齢	平均	87.5 歳	最低	73 歳	最高　100 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	清水医院、さいす歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同法人が運営する医院、介護老人保健施設、居宅介護支援事業所、通所リハビリ事業所等が同じ敷地内にあり、他事業所との連携が図られているため、利用者や家族は安心して過ごしている。利用者の普段の生活を一番に考え、季節ごとの行事を大切にし、利用者から行事に関する情報を得ながら行っている。職員は利用者本位に支援しているため、利用者は落ち着いて自分のペースで生活している様子が伝わってくる。
家族の訪問が多く、毎月の請求書を手渡し、現金で受け取っている。さらに、行事の際に家族へも案内を送付し、家族参加も多くあるため、利用者が楽しい一時を過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の評価で取り組みを期待したい項目と指摘された、「地域密着型サービスとしての理念」について、全職員で協議し具体的な内容を追加した。また、運営推進会議の開催は、委員の委嘱をし、来月から開始予定である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	評価の意義を十分に理解し、自己評価は自分を振り返る良い機会だと捉え、今回の自己評価は、職員全員で取り組んだ。記入したものを基に管理者がまとめ、改善課題等を把握し検討することで質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5）
	昨年度の外部評価で取り組みが必要な項目とされ法人全体で準備をし、今月中に委員を委嘱できるような体制となった。来月から開催を予定している。地域に開かれたサービスとして質の確保を図るうえでも、事業所の活動を明示し、委員からの助言を受け取り組まれることを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	毎月の家族訪問時に日頃の利用者の様子等詳しく伝え、家族の要望や意見等を言いやすい雰囲気作りをしている。また、年に1～2回家族が参加できる行事を開催し、家族の意見等を聞き取る場面を作っている。聴取した意見等は申し送りされ、運営に反映している。今後は、些細な意見や要望も記録として残していかれれば、さらに良いと思われる。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地域行事（敬老会、花火大会等）に利用者と一緒に参加しており、事業所へ地域ボランティアの定期的な訪問があり、双方向で地域と交流が行われている。また、利用者は秋祭りの子どもみこしへおひねりを渡すことを楽しみにしている。

2.　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔あふれるぬくもりのある家」を理念の柱に掲げ地域の中にとけ込み利用者がその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとしての理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の玄関、共有空間、事務室等に理念を掲示し、毎朝、各自で読んでから業務に就いている。日々のケアを通して理念が実践されるよう取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の自宅がある地区毎に開催される「敬老会の案内」や「灯篭流しの花火大会の案内」等が届き、参加している。また、地域の秋祭りには子供みこしが訪れたり、ボランティアが定期的に訪問してくれたりと、徐々に地域との交流が深まっている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	それぞれの職員の自己評価を管理者がまとめ「改善点」を見出すシステムを採っている。職員には反省・気付きの良い機会になっている。外部評価の結果についても会議で検討し、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議メンバーの地域包括支援センター代表・区長・家族代表などへ委嘱状を発送するところまで漕ぎつけた。実際の開催は来年の1月以降を予定している。	○	運営推進会議が開催されていないため、災害時の地域の協力体制ができていない。地域に根ざしたグループホームの運営のために会議を2ヶ月に1回定期的に開催することが望まれる。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は面会を兼ねて利用料納入のため毎月事業所を訪問する。その際に利用者の近況報告を写真などを添えて行っている。金銭管理については出納帳とレシートで家族の確認を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等は出し易い雰囲気作りに気配りしているが、職員に言い難い様な意見等は法人内、居宅介護支援事業所を介して伝えてもらった例もある。意見等があった場合は全職員で検討し、家族に事業所の見解を伝え、運営へ反映させる体制となっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力職員の異動を抑える方針とし、異動があった際には十分な移行期間を設け馴染みの関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県消防学校主催の自衛消防隊員教育訓練等を含めた外部研修に職員を参加させたり、併設病院に出入りする薬屋さんに依頼しての感染症等の内部研修も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム連絡協議会に加入し、研修会等に職員が出席し、情報収集に努めているが、出席しているのは一部の限られた職員である。他のグループホームとの交流はほとんど行われていない。	○	今後は、他事業所の職員との実践的な交流や連携を通して、事業所のサービスの質の向上へ取り組まれるよう期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	知識の豊かな利用者から季節の行事や料理の仕方を教えてもらい、利用者自身の存在感や役割を引き出す工夫をしながら、共に過ごし支えあう関係作りをしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を参考にしたり、意思表示の出来ない人には家族からも聞き取りを行ったりし、日常会話の中で把握した利用者の希望や意向に基づき支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや家族の意見を基にサービス担当者会議で検討し作成している。出来上がった介護計画を家族に確認しながら、支援している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者や家族の希望、状態変化を踏まえ3ヶ月ごとにサービス担当者会議を開催し、サービス内容を見直している。期間終了前に、利用者の心身の変化に応じての見直しは行っていない。	○	事故発生、疾病による心身の変化や利用者や家族の意向の変更などがある場合は、3ヶ月ごとの見直しではなく、状態変化に応じ速やかに介護計画を見直すことが必要である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に隣接する事業所であり、入居時に協力医療機関へかかりつけ医を変更し、定期的に安定した診療が受けられる体制となっている。利用者の状態変化があれば、夜間も対応可能な状況である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との話し合いは行っているが事業所の「重度化や終末期に向けた方針」や具体的内容の標準化までには至っていない。	○	重度化や終末期のあり方について、設備、支援内容など事業所としての基本方針を明確にし、それにより、利用者、家族、かかりつけ医等、関係者が繰り返し話し合いながら支援することが必要になってくる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の支援の中で誇りやプライバシーに配慮し支援している。職員の個人情報の守秘義務についても誓約書を取り交わす等組織的に取り組んでいる。また、記録物の管理についても適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者の体調や気分に合わせ散歩、買い物、畑仕事など希望に沿った暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る事を把握し、利用者と職員が一緒に準備したり、片付けしたりして食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴するかどうかを確認し、利用者の希望や体調に応じた入浴支援が出来るように取り組んでいる。状況に応じて夜間の入浴も支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	洗濯ものたたみ、タンス整理、食器拭き、草むしり、畑の手入れや収穫等、利用者が得意なもので力を発揮し生き生きと生活できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	気分転換が図れるよう日常的に散歩や買い物、ドライブに誘い外出支援を行っている。また、家族の協力も得ながら墓参り等に出かけることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	東館は、職員の見守りにより玄関の鍵をかけずに支援しているが、西館は、建物構造上の問題点や利用者の状態により、日中も玄関を施錠している。現在、鍵を外して支援できないか検討しているところである。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回の訓練をするとともに自衛消防隊員教育訓練に毎年職員が参加している。隣接の老健に災害時の備蓄が準備されている。しかし、地域との連携が取られておらず、協力体制はできていない。	○	事業所内での夜間想定の避難訓練や消火訓練を定期的に行い、さらに、地域の協力体制が確保できるよう働きかけをしていくことが大切である。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立となっており、一人ひとりの状態に合わせて刻みやおかゆも提供している。食事と水分の摂取量を確認し、記録しながら水分摂取が少ない方には個別に対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	両ユニットの共有空間をつなぐようにウッドデッキが配置されており、天気の良い日は外で食事を摂ることもある。廊下には行事の際の写真、利用者の作品や鉢植え等がある。食堂に隣接した畳のコーナーにはこたつがあるなど生活観や季節感を取り入れ、落ち着いたやすらぎのある空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、清潔で明るく収納スペース（タンスも設置済み）がとても広い。利用者の使い慣れた身の回りの物（タンス、テレビ、椅子、冷蔵庫、電子レンジ等）が持ち込まれ、以前と変わらず居心地よく過ごせるように支援している。		

※ ▒ は、重点項目。

３ 評価結果に対する事業所の意見

事 業 所 名	グループホーム「さくら」
記入担当者名	大内 那美江

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。